

3月分

過去も変えられる。

3月1日.

よく昔から「過去と他人は変えられないけど、自分と未来は変えられる」と言われていました。(しかし、本当に過去は変えられないのでしょうか。私は過去も変えられると思っています。過去の事実は変えられないのですが、過去に対する考え方は変えられます。ではどうしたら考え方を変えることができるのでしょうか。

稲盛和夫氏の「生き方」という本を読まれた方も多いのではないのでしょうか。氏は、この本の中でも人生や仕事の結果について方程式を示して、私達にわかりやすく説明してくれています。

$$\underline{\text{人生の仕事の結果}} = \text{考え方} \times \text{熱意} \times \text{能力} \quad (\text{すべて掛算})$$

(-100~100) (1~100) (1~100)

この簡単な説明は、当事務所の経営計画書のP22とP23に書いてあります。お客様は見せても結構です。稲盛氏はこの中で「考え方が一番大事で、考え方は-100からプラス100まであり、考え方がマイナスだと他がいくら高くても人生はより結果に存しないと強く言っています。この考え方の教育が現在なされてない気がします。親も学校も会社もなされてないと思います。又としての正しいものの見方を考え方が教えられるために自己中心的なものの考え方をする人固が増えていきます。相手の立場。例えば会社を辞めるなど、会社の中における自分の立場、会社の状況を考えないで自分がどうしたいかという考えだけで判断し、回りの意見を聞かないのも特徴です。私は社内勉強会で話の聞き方について3つのことを言っています。①自分の価値感で話を聞かない。②話の内容を聞く。③相手の立場になって聞く。この3つが素直な心で聞くと伝わります。

経営者漁火会の勉強会で講演された柱小全治師匠の話の中で印象に残ったのは、師匠の父親は小学校もろくにでていないのに、人としての道、礼儀、生き方を教わったと言っていました。学問をしなくても人としての教養と高い人格を身につけていたと思いましたが、ではどうしてそのような人格が身につけられたかと言うと、小学校の教育で「教育勅語」を暗記させられ、それが大人になって身についたのではないかと思います。日本電産の永守社長も母から教えられることが人生の支えになっていると本に書かれています。

私は、会社を人材育成の場にならんと社会貢献が出来ないのではないかと考えています。人材育成とは、技術の育成ではなく、人格の向上を目的とした教育です。基本は6S、整理、整頓、清掃、清潔、躰、そして作法です。5Sと立居振るまいである挨拶、礼儀の作法を身につけると人格は必ず向上すると信じています。特に具体的に行動する清掃は最高の教育の場です。そして考え方を表現する最高の教科書が経営計画書です。経営計画書こそが価値感を共有し、人格を向上させる魔法の書です。